Contents

		収録ページ（Part 1; Part 2）
001.	SV の発見（前置詞句を取り除けば SV が浮き出る）	10; 120
002.	SV の発見（形に惑わされるな，主語についた長い to 不定詞）	11; 120
003.	SV の発見（主語に絡みついた分詞を取り除けば SV が浮き出る）	12; 121
004.	SV の発見（主語に絡みついた節が導く範囲は２番目の動詞の直前）	13; 121
005.	補語の発見（補語が文頭に出ると倒置形になる）	14; 122
006.	目的語の発見（目的語が文頭に出ても SV の倒置は起こらない）	15; 122
007.	目的語の発見（離れた所にある直接目的語に注意しよう）	16; 123
008.	目的語の発見（分離された目的語に注意しよう）	17; 123
009.	目的語の発見（目的語を２つとる意外な動詞に注意しよう）	18; 124
010.	目的語と補語の発見（see, hear, feel 以外の知覚動詞に注意しよう）	19; 124
011.	目的語と補語の発見（使役動詞に注意しよう）	20; 125
012.	目的語と補語の発見（to 不定詞は補語に）	21; 125
013.	目的語と補語の発見（O と C の逆転に注意しよう）	22; 126
014.	修飾語の発見（長い修飾語句に注意しよう）	23; 126
015.	省略構文（省略部分は前方を見よう）	24; 127
016.	省略構文（前の内容を受ける not と so に注意しよう）	25; 127
017.	省略構文（副詞節中の〈S ＋ be 動詞〉の省略に注意しよう）	26; 128
018.	省略構文（代動詞 do の内容は前に出てくる動詞に求めよう）	27; 128
019.	省略構文（代不定詞の内容は前方の動詞に求めよう）	28; 129
020.	挿入構文（カッコ以外の挿入表現に注意しよう）	29; 129
021.	挿入構文（慣用的な挿入構文 if not ～ に注意しよう）	30; 130
022.	無生物主語構文（主語は副詞的に，目的語は主語として訳出しよう）	31; 130
023.	名詞構文（〈所有格＋名詞〉の部分に SV の関係を読みとろう）	32; 131
024.	名詞構文（〈of ＋抽象名詞〉に形容詞の意味を読みとろう）	33; 131
025.	共通構文（並列した動詞や前置詞の目的語に注意しよう）	34; 132
026.	共通構文（複数の動詞の共通した目的語に注意しよう）	35; 132
027.	強調構文（It is ～ that の部分を省略しても完全な文）	36; 133
028.	強調構文（強調構文 It is ～ that の応用表現に注意しよう）	37; 134
029.	同格表現（文中のカンマ・コロン・ダッシュに注意しよう）	38; 134
030.	同格表現（前置詞 of が同格を導く）	39; 135
031.	同格表現（関係代名詞と働きの違う同格節を導く that に注意しよう）	40; 135
032.	関係詞構文（文中の SV の前に目的格の関係代名詞 that を補おう）	41; 136

033. 関係詞構文（先行詞はいつも関係詞の直前とは限らない） 42; 136
034. 関係詞構文（関係詞の前にカンマがあれば前から後ろへと訳そう） 43; 137
035. 関係詞構文（2 つの関係詞が 1 つの先行詞を限定） 44; 137
036. 関係詞構文（先行詞の前についた that や those は訳出不要） 45; 138
037. 関係詞構文（〈前置詞＋関係代名詞〉は前置詞を文末に移そう） 46; 138
038. 関係詞構文（what ＋ S ＋ is [was] は「今［昔］の S」） 47; 139
039. 関係詞構文（比例・割合関係を表す what と as） 48; 139
040. 関係詞構文（関係副詞 that の用法もお忘れなく） 49; 140
041. 関係詞構文（継続用法の as に注意しよう） 50; 140
042. 関係詞構文（補語が先行詞に） 51; 141
043. 分詞構文（being の省略された分詞構文に注意しよう） 52; 141
044. 分詞構文（受動態の being も省略される） 53; 141
045. 分詞構文（主語が主節の主語と異なる分詞構文に注意しよう） 54; 142
046. 分詞構文（付帯状況の前置詞 with も分詞構文に） 55; 142
047. 分詞構文（独立分詞構文の慣用句化したものに注意しよう） 56; 143
048. 動名詞構文（読んで字のごとし，名詞の働きをする動名詞） 57; 143
049. 動名詞構文（動名詞の意味上の主語は所有格か目的格で） 58; 144
050. 不定詞構文（文頭の to 不定詞は，後に SV があれば条件か目的） 59; 144
051. 不定詞構文（意味上の主語は〈for ＋ O〉を直前に） 60; 145
052. 不定詞構文（分離された不定詞に注意しよう） 61; 145
053. 不定詞構文（形式主語の it の後がいつも be 動詞とは限らない） 62; 146
054. 不定詞構文（〈be ＋ to 不定詞〉の様々な用法に注意しよう） 63; 146
055. 不定詞構文（目的で不自然ならば結果の意味にとろう） 64; 147
056. 不定詞構文（to 不定詞の意味上の目的語は前方を探そう） 65; 147
057. 不定詞構文（独立不定詞の慣用表現に注意しよう） 66; 148
058. 不定詞構文（否定文中の too ～ to do ... 構文に注意しよう） 67; 148
059. 不定詞構文（結果・程度を表す不定詞構文に注意しよう） 68; 149
060. 倒置構文（否定の副詞が文頭に出たときの倒置に注意しよう） 69; 149
061. 倒置構文（only も意味の上では否定の副詞） 70; 150
062. 倒置構文（副詞句も文頭に出ると VS の倒置になることがある） 71; 150
063. 倒置構文（so ～ that ＋ SV 構文にも倒置形がある） 72; 151
064. 倒置構文（呼応の so, nor, neither も VS の倒置を伴う） 73; 151
065. 倒置構文（接続詞の as や than の後も VS の倒置が起こる） 74; 152
066. 仮定法構文（仮定法は事実をふまえての仮定の意味） 75; 152
067. 仮定法構文（条件節に代わるものを探し出そう） 76; 153
068. 仮定法構文（仮定法の倒置に注意しよう） 77; 153
069. 仮定法構文（可能性ゼロから可能性ありの仮定法） 78; 154
070. 仮定法構文（特定の動詞に続く that 節中での原形動詞に注意しよう） 79; 154
071. 仮定法構文（otherwise は前文の内容を受けて訳そう） 80; 155
072. 比較構文（no ＋比較級＋ than ～ の訳は as ＋原級＋ as ～ に） 81; 155
073. 比較構文（クジラの構文：no more ～ than） 82; 156
074. 比較構文（クジラの構文逆バージョン：no less ～ than） 83; 156
075. 比較構文（〈the ＋比較級，the ＋比較級〉構文の変形に注意しよう） 84; 157
076. 比較構文（〈all the ＋比較級〉の後には理由･条件を表すものを探そう） 85; 157
077. 比較構文（less ～ than ... は「…ほど～ない」以外の意味もあり） 86; 158
078. 比較構文（否定文中での比較級は最上級の意味に） 87; 158
079. 比較構文（not so much *A* as *B* の変形に注意しよう） 88; 159
080. 比較構文（最上級――直訳で不自然なら even を補おう） 89; 159
081. 比較構文（as ～ as の後に数詞がきたら訳に工夫を） 90; 160
082. 否定構文（否定語の no と not の違いを明らかにしよう） 91; 160
083. 否定構文（〈not と 100% を表す副詞〉で部分否定になる） 92; 161
084. 否定構文（否定文の後の but に注意しよう） 93; 161
085. 否定構文（not only *A* but *B* の様々に変化した構文に注意しよう） 94; 162
086. 否定構文（否定語 2 つで肯定の意味に） 95; 162
087. 否定構文（more ～ than に否定の意味あり） 96; 163
088. 否定構文（far from ～ も否定表現） 97; 163
089. 否定構文（否定の意味を含む the last に注意しよう） 98; 164
090. 否定構文（否定の意味を含む all ＋ SV ～ の訳に注意しよう） 99; 164
091. 接続詞を含む構文（形式主語） 100; 165
092. 接続詞を含む構文（慣用句化したものをマークしよう） 101; 165
093. 接続詞を含む構文（so と離れた that をマークしよう） 102; 166
094. 接続詞を含む構文（such ～ that ＋ SV の多様な用法をマークしよう） 103; 166
095. 接続詞を含む構文（so that の後に助動詞がない？） 104; 167
096. 接続詞を含む構文（接続詞 that に前置詞がつく） 105; 167
097. 接続詞を含む構文（主語を導く接続詞の that） 106; 168
098. 接続詞を含む構文（比較級とともに現れる as） 107; 168
099. 接続詞を含む構文（譲歩の as に注意しよう） 108; 169
100. 接続詞を含む構文（直前の名詞を制限する as） 109; 169
101. 接続詞を含む構文（It is true ～ but ... の変形に注意しよう） 110; 170
102. 接続詞を含む構文（挿入の *A* or *B* は whether を補って考えよう） 111; 170

103. 代名詞構文（Some ～ others ... には訳の工夫を） 112; 171
104. 代名詞構文（it が後の節の内容を指す） 113; 171
105. 代名詞構文（後述の内容を表す this） 114; 172
106. 代名詞構文（the former と the latter が示すものは？） 115; 172
107. その他の構文（be ＋ S ～ の譲歩構文） 116; 173
108. その他の構文（There is ＋ S ＋現在分詞［過去分詞 など］） 117; 173
109. その他の構文（文修飾の副詞） 118; 174
110. その他の構文（修辞疑問文） 119; 174

■ NOTICE

① Part 1 と Part 2 で同一の問題番号の英文は，それぞれ共通の演習項目を含んでいます。

② ですから，Part 1 の 001 の問題を演習した後，Part 2 の 001 の問題に進んで理解度を試すことができます。その際，理解できていない点は解答解説編の解説で確認すると同時に Part 1 の問題編・解答解説編の同番号の解説を再読することで基本をチェックすることもできます。

③ 英文中の（　）は省略可能を，［　］は直前の語句と交換可能であることを示します。

■ 英文解釈のための TIPs

（　）内の数字は解説を含む解答解説編収録ページ

1. 修飾語句を取り除けば SV の形がハッキリする。(10)
2. the time when ＋ SV ～ が be 動詞の後で補語になる時，the time はしばしば省略されることがある。(11)
3. 分詞が形容詞として名詞を修飾する際，冠詞を除いて 1 語の時はその名詞の前に，2 語以上の時はその名詞の後にくる。(12)
4. 主語に絡みついた関係詞節や同格節の勢力範囲は 2 番目の動詞の前まで及ぶ。(13)
5. C が文頭に出ると CVS の倒置形になる。(14)
6. 目的語が文頭に出ても SV の倒置は起こらず，OSV の語順になる。(15)
7. 比較的長く複雑な要素は文末に置いて安定感を持たせる「文末重点の原則」がある。(17)
8. save，cost，spare の目的語が人の時は，後ろに直接目的語を探す。(18)
9. SVOC の文では，O と C は〈主語と述語の関係〉にある。(19)
10. SVOC の第 5 文型では，文末重点の原則により，O と C が逆転して SVCO の語順になることがある。(22)
11. 複数の語を伴う形容詞が名詞を修飾する時はその名詞の後にくる。(23)
12. 省略された語句は前方にある。(24)
13. 動詞の強調形は助動詞の do（人称や時制に応じて，does，did に変化）を用いる。(24)
14. 主語が主節の主語と同じ時，副詞節の〈S ＋ be 動詞〉は省略できる。(26)
15. 代動詞 do のもとの動詞は同一文の前半か前文にある。(27)
16. 同じ動作が繰り返され，2 度目に出てくる動詞に to がある時，その動詞を省略して to だけで表す（代不定詞）。(28)
17. 前後にカンマやダッシュがあれば挿入。(29)
18. 無生物主語構文では，主語は副詞的に，目的語は主語のように訳出。(31)
19. 名詞中心の構文では，もとの動詞や形容詞に戻して「～が…する」という SV 関係や「～を…する」という VO 関係を読みとり訳出する。(32)
20. 〈of ＋抽象名詞〉は形容詞の意味になる。(33)
21. A・B・C・D を並べる時，最後の D の前に and や or を入れる。(34)
22. It is [was] ～ that ... を消去して文が成立すれば強調構文，成立しなければ形式主語構文になる。(36)
23. 同格はカンマ・コロン・ダッシュや前置詞の of でも表せる。(38 ; 39)
24. 同格の that 節では節の中は完全な文。(40)
25. 文の途中で接続詞もなくいきなり SV がきたら目的格の関係代名詞の that を補

001 SV の発見（前置詞句を取り除けば SV が浮き出る）

解説 最初のテーマは**前置詞句を取り除いて SV ～ を見つけ出す**ことです【TIP 1】。主語にたくさんの前置詞句がついています。それらを取り除いてください。英文解釈の基本は，**主語（S）と述語動詞（V）を探す**ことから始まります。

① The advancement (S) has been (V) slow. (C)
- of the black man
  - in the United States,
- 1 from the position
  - of slave
- to 2 that of proud and equal citizen,

文の骨格だけを訳せば，「向上は遅々たるものであった」となりますが，この主語の「向上（advancement）」に，「アメリカ黒人奴隷の」と「奴隷の地位から誇りある平等な市民の地位への」という修飾語句がついています。

◉1 **from *A* to *B***「A から B へ」
the advancement *from* A *to* B「A から B への向上」

◉2 **that は同一の名詞の反復を避けるために用いる代名詞**で，ここでは the position を表します。
The climate of Tokyo is much milder than *that* of Aomori.
「東京の気候は青森の気候よりずっと温暖である」
The mountains of Japan are generally higher than *those* of Britain.
「日本の山々は概してイギリスの山々よりも高い」
☆**受ける名詞が複数の場合**は代名詞は **those** となります。

② The black man's hopes (S) have often ended (V) in despair.

和訳 ①アメリカ黒人の，奴隷の地位から誇りある平等な市民の地位への向上は遅々としたものであった。②黒人の希望はしばしば絶望のうちに終わっている。

002 SV の発見（形に惑わされるな，主語についた長い to 不定詞）

解説 第①文の主語と述語動詞を見極めることがポイントになりますが，主語を government，述語動詞を attempts としたらアウトです。

① Government attempts (S) have been (V) notoriously unsuccessful. (C)
- to keep former secret agents from publishing secrets
  - 1 (that / which) they once promised to keep

文の骨格だけを訳せば，「政府の試みは不首尾であった」となります。この主語の government attempts（政府の試み）に to keep former secret agents from publishing secrets（以前の秘密諜報部員が秘密を公表することを妨げようとする）という to 不定詞の修飾語句がついて，attempts の内容を説明し，さらにその修飾語句中の secrets を they once promised to keep（彼らがかつて守ると約束した）という関係代名詞節が修飾しています。

◉1 文中に〈**... 名詞＋ SV ～**〉**の形が続いていたら，SV の直前に目的格の関係代名詞（that, which, whom）が省略**されているものと考えてください【→ TIP 25】。これは一般に接触節と呼ばれています。

② One (of the best-known recent examples) (S) was (V)
2 when (C（名詞節） the *New York Times* and *Washington Post* (S') published (V')
the so-called "Pentagon Papers." (O')

◉2 **the time [the day / the season] when ＋ SV ～**「～するとき［日／季節］」この表現が **be 動詞の後で補語になるときは，先行詞**の the time, the day, the season などは**しばしば省略**されます【TIP 2】。
Monday is (*the day*) *when* we feel blue.「月曜日は憂鬱な日だ」

和訳 ①かつての秘密諜報部員たちがかつて守ると約束した秘密を公表させまいとする政府の試みが，不首尾に終わったことは有名だ。②最近の例で最もよく知られているのは，ニューヨークタイムズ紙とワシントンポスト紙がいわゆる「ペンタゴン文書」を公表したときであった。

003 SV の発見（主語に絡みついた分詞を取り除けば SV が浮き出る）

解説 A = a *lost* child（迷子の子供），B = a child *lost in the woods*（森で迷子になった子供）のように**分詞が名詞を修飾する際に**，冠詞を除いて**1語のときは A のように名詞の前に，2語以上のときは B のように名詞の後に置きますが**，これを**後置修飾**と呼びます【TIP 3】。さて，第①文を見てください。A study from Nigeria published last year の部分を「ナイジェリアの研究が昨年発表した」としたら，後の文に続きません。published last year の部分は which was published last year の意味を表す後置修飾で，a study from Nigeria を修飾していると考えてください。

① A study (S) — from Nigeria — published last year — found (V)

(that) 64% of students (S') believed (V') that wearing glasses (O'（名詞節 S"）) can damage (V") eyes. (O"）)

② Research (S1) — in the Indian state of Karnataka — put (V1) the figure (O1) at 30%,

and in Pakistan → 69% of people (S2) feel (V2) the same way. (C2)

③ In Brazil, → even medical staff (S) believed (V) that your eyes (O（名詞節 S'）) would (gradually) get (V') weaker (C')

as a consequence — of wearing glasses.

和訳 ①昨年発表されたナイジェリアの研究によると，眼鏡をかけると目にダメージを与える可能性があると信じている学生が64％もいることがわかった。②インドのカルナタカ州の研究では，その数字は30％，パキスタンでは69％の人たちが同じように感じているという。③ブラジルでは，医療従事者でも，眼鏡をかけた結果，目が徐々に衰えると信じていた。

004 SV の発見（主語に絡みついた節が導く範囲は 2 番目の動詞の直前）

解説 **主語についた関係詞節の勢力範囲は2番目の動詞の直前までですが**【TIP 4】，注意しなければならないことは，その動詞は不定詞・動名詞・分詞などの準動詞ではなく，**現在形・過去形・完了形の動詞や助動詞などのついた動詞**でなければならないことです。

One of the articles (S) — 1 that (S') captured (V') my attention (O'（形容詞節）) — on the site — last week

was (V) a feature (C) — 1 that (S') examined (V') whether or not some of the popular myths (O'（名詞節 S"）)

we have all heard enough (（形容詞節）) times

2 to assume (V"') they are probably true (O"'（名詞節）) (（副詞用法／程度）)

actually hold up (V")

under the harsh light — for scientific investigation.

◉1 文の骨格だけを訳すと「記事の1つは，ある特集だった」となります。「記事」（articles）と「特集」（feature）のそれぞれに関係代名詞が絡みついて複雑な形にしています。

◉2 **enough ＋名詞 ～＋ to *do* ...**「…するのに十分な～，十分～なので…する」 to 不定詞が形容詞や副詞の程度を限定する用法です。**形容詞［副詞］～＋ enough to *do* ... や so ＋形容詞［副詞］～＋ as to *do* ...** などの形もとり，「…するのに十分～，十分～なので…」の意味を表します。

和訳 先週そのサイトで私の注意を引いた記事の1つは，私たちの誰もが何度も耳にするために，おそらく事実であろうと思い込んでいる俗説が，科学的調査の厳しい追及を受けても実際，真実だと言い切れるかどうかを検討した特集だった。

001

和訳 最も初期の時代から現在にいたるまで，そして最も原始的で単純な生活様式から最も複雑な生活様式に至るまでの人類の発展の全過程を調べてみると，人間が一緒に生活したときはいつでも教育に対する集団的関心が高まったという事実に強く印象づけられる。

解説 ‣ **as** = when

‣ **be impressed by [with] ～**「～に感動する」

‣ 基本は As we survey the whole course of man's development, we are strongly impressed by the fact. で，man's development ～ living と the fact ～ education の部分は次のように考えます。

（従属節） As we survey
S' V'
the whole course of man's development
O'
from the earliest times
to the present
and
from the most primitive and simple
to the most complex ways of living,

（主節） we are strongly impressed
S V
by the fact that whenever + S' + V' ～ there has been + S".
（同格節 〈従属節〉 〈主 節〉）

002

和訳 様々な行動形式が奇妙なものに見えるだけでなく，間違っていたり不自然なものに見えることがある。この一見奇妙な行動を人々がとる理由を見つけ出そうとどんなに努力してみても，満足のいく答えが得られることはめったにない。いつもそうしてきたという以外，人はそのように行動する理由を普通は知らない。

解説 ‣ **not only *A* but *B***「A だけでなく B も」 queer が A にあたり，wrong or unnatural が B にあたります。

‣ Any effort は肯定文中なので「どんな努力も」と訳します。effort の中身を to find out 以下の不定詞（形容詞用法）が説明しています。

‣ **find out**「見つける」

Any effort rarely brings a satisfactory answer.
S V O
to find out why people behave in these seemingly queer ways
（形容詞句）

‣ **except that + SV ～**「～であるということ以外に」 that は名詞節を導く接続詞で，その名詞節全体が前置詞 except の目的語になっています。

003

和訳 私たちは昆虫を食べる鳥や獣に多くの恩恵をこうむっているが，それらを全部一緒にしても，クモが殺す数のほんの一部しか殺していない。その上，昆虫を食べる他のものと違って，クモは私たちや私たちの身の回りのものにまったく害を与えることがないのである。

解説 ‣ **owe *A* to *B***「A は B のおかげである」

‣ 次のように put together は all of them に，destroyed by spiders は the number にそれぞれかかる**後置修飾**で，all of them (that are) put together kill a fraction of the number (that is) destroyed by spiders と（ ）内に関係代名詞と be 動詞を補って考えてください。

～ but all of them kill a fraction of the number
S V O
put together
destroyed by spiders

‣ **never do the least harm to ～**「～にまったく害を与えない」 never と the least で否定の強調になります。

004

和訳 アメリカ人が老人を見るときに見落としている問題は誰もが年をとるということである。老齢は単に1つの，同じように重要な人生の時期である。私たちは，自分たちの生活から老人を閉め出すことによって，老人の経験から学び，自分自身について学ぶことを拒否しているのである。

解説

‣ The issue is that everyone gets old.
S V C（名詞節）
overlook「見落とす」
that Americans are overlooking
（形容詞節） S' V'
overlook「見る」
when they overlook the elderly

‣ the elderly「老人」（= elderly people） **the +形容詞**で「～な人々」の意味を表します。

‣ Old age ～ では，another と equally important はともに stage of life にかかります。

‣ By shutting the elderly out of our lives, （副詞句）
we are refusing to learn from their experiences,
refusing to learn about ourselves. （同格）